

子ども会ジュニアリーダーの 定例会に関する調査

ジュニアリーダーコミュニティセンター

はじめに

この調査は、2003年6月17日0時00分から、同年7月17日23時59分まで、インターネット上のウェブサイトである「ジュニアリーダーコミュニティセンター」(URL <http://jleader.s12.xrea.com/>)で行われたものです。

子ども会の一環であるジュニア・シニアリーダーのクラブの定期的な集まりである「定例会」を調査して、その全国的な傾向を考察する目的で行われました。

アンケート方法

アンケート方法はアンケートに協力しようとする者が、インターネットのアンケート投票用ページにアクセスして、設定されている項目に記入するという方式をとりました。

インターネットを用いたアンケートは、他のアンケート方法に比して信憑性が低いものとされています。

そこで、項目にクラブ名と投稿者名、メールアドレスを設定し、記入がない場合は集計から除外をしました。つまり、無記名ではなく、記名アンケートの形をとっています。

アンケート協力者の概要

総計で30名の方から協力をいただきました。そのうち、同一のクラブから複数の協力をいただいたところもあったので、クラブ数で換算すると27のクラブの方から協力をいただきました。ブロック別では以下の通りです。

ブロック名	協力クラブ数	ブロック名	協力クラブ数
北海道	0	近畿	2
東北	2	中国四国	4
関東甲信越静岡	8	九州	5
東京	2	指定都市	2
東海北陸	2	計	27

なお、複数の協力があつた場合のアンケートの取り扱いは、クラブのデータに関するものは先に投票があつたものをクラブのデータとしました。また、「定例会の問題点」など、それ以外のものに関しては、区別をつけずに集計しました。さて、結果報告に入っていきますよう。

報告(1)会員数・参加率

Q. 会員数はどのくらいですか？

選択肢： A. 0～20人 B. 21～50人 C. 51～80人 D. 81人以上

会員数	クラブ数
A. 0～20人	7
B. 21～50人	16
C. 51～80人	3
D. 81人以上	1
計	27

表1・クラブの会員数

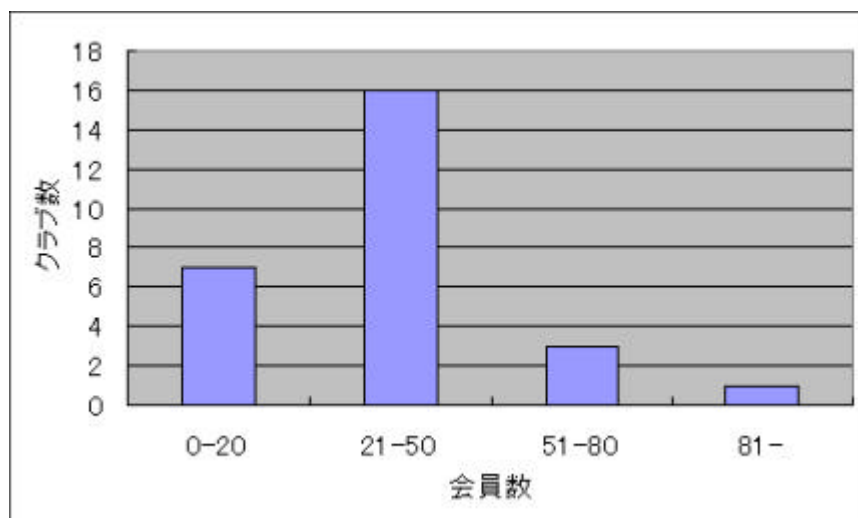


図1・クラブの会員数

クラブの会員数を見ると、21～50人という中規模のクラブが突出して多く、次に0～20人の小規模なクラブが続いています。

一方、50人を超える大規模なクラブは少数です。

ですから、ジュニアリーダークラブは、50人以下で構成されている場合が多いということがわかります。

Q. 定例会の参加率はどのくらいですか？

選択肢： A. 0～25% B. 26～50% C. 51～75% D. 76%以上

参加率	クラブ数
A. 0～25%	5
B. 26～50%	8
C. 51～75%	9
D. 76%以上	5
計	27

表2・定例会の参加率

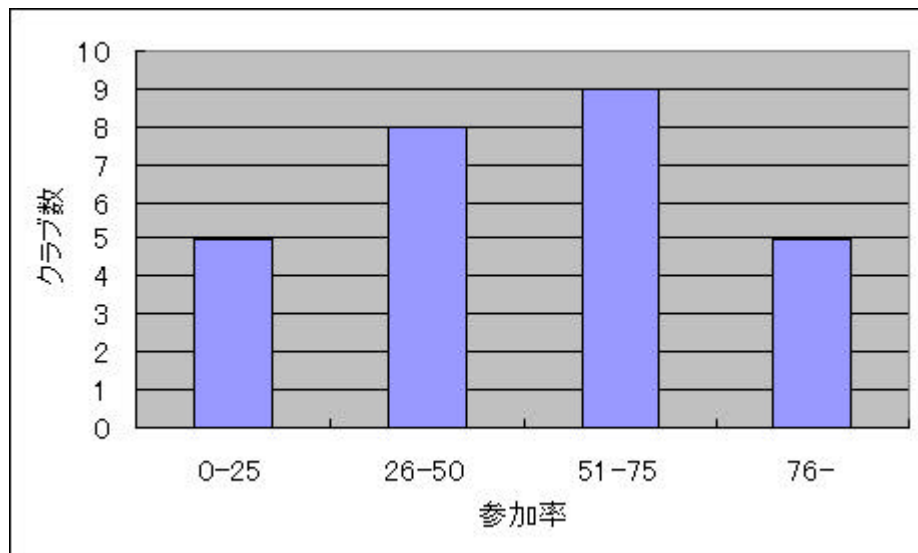


図2・定例会の参加率

クラブによって諸事情があるので一概には言えませんが、会員の定例会への参加率は高いほうが望ましいのは明らかでしょう。

参加率が高いということは、会員のクラブの活動に参加する意欲が高いということであるからです。

参加率が25%以下であれば、たまにしか出てこない会員が半数近くいたり、幽霊会員が大勢いるでしょう。

逆に、参加率76%以上というところは、ほとんどの会員が毎回参加していることとなります。

これから先の報告でも、参加率とそのデータの間関係を考察することが多くなりますが、これは参加率がひとつの「パラメータ」になると考えているからです。

さて、結果を見てみましょう。

定例会への参加率は、50%前後に山がありますが、25%以下や、76%以上というクラブも少なくありません。平均して、ジュニアリーダーの定例会の参加率は、50%くらいである、ということでしょう。

これは、かなり健闘している数字だと思われます。

「ジュニアリーダー」は中学生や高校生が多いですが、彼らを取り巻く状況は厳しいものがあります。

放課後や休日も部活、塾などで毎日忙しい生活を送っており、それに加えて、月数回でも継続的にジュニアリーダー活動に参加することは、うまくやらないと困難であるからです。

そんな状況で、ジュニアリーダークラブの定例会参加率の平均が約50%であるということは、特筆すべきことではないでしょうか。

会員数と参加率の関係

では、会員数と参加率の関係はどうなっているのでしょうか。

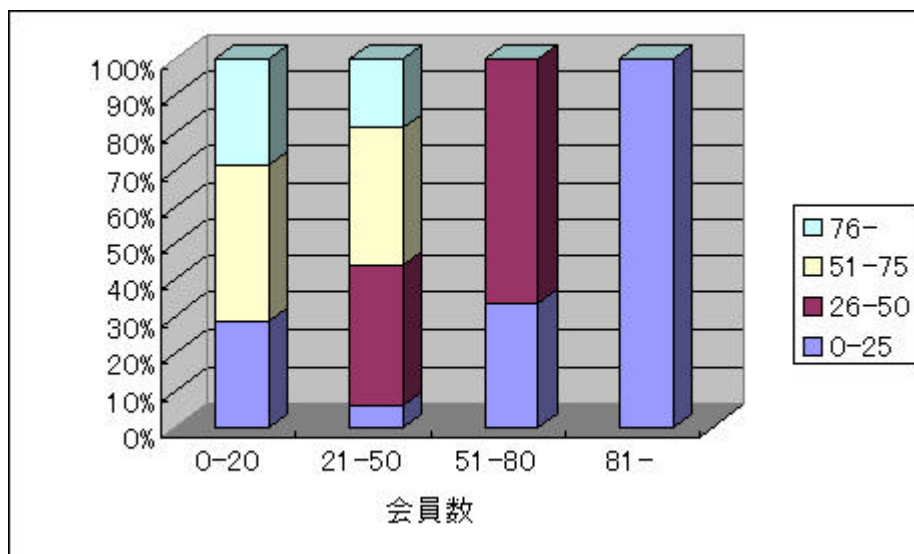


図3・会員数 × 参加率

右会員数・下参加率	A.0~20人	B.21~50人	C.51~80人	D.81人以上	計
A. 0~25%	2	1	1	1	5
B. 26~50%	0	6	2	0	8
C. 51~75%	3	6	0	0	9
D. 76%以上	2	3	0	0	5
計	7	16	3	1	27

表3・会員数 × 参加率

図3を見てみましょう。

会員数が少ない0~20人や21~50人では、参加率が高いことを示す「76-」や「51-75」がかなりの割合であります。会員数が多くなると、それがすっかりなくなってしまいます。

つまり、会員数が少ないほど参加率がよいということがわかります。

会員数が大きくなると、全員に役割が与えられないことが多く、参加しても「自分がクラブの役に立っている」という実感がわきにくいのかもかもしれません。

また、ジュニアリーダークラブは中高校生を中心に運営されていることが多く、細かいところまで目が届きにくいという面もあるでしょう。

逆を言えば、会員数が少ないクラブでは、必然的に何らかの役割が与えられ、仲間意識もより強いものになっていると考えられます。

よって、クラブの会員数が増えてきた場合、班を作るなど、運営に工夫が必要になるといえるでしょう。

Q.メンバーの構成はどうなっていますか？

選択肢： a.小学生 b.中学生 c.高校生 d.高卒～ (*あてはまるものをすべてチェックしてください)

構成員	クラブ数
a.小学生	3
b.中学生	23
c.高校生	26
d.高卒～	18

表4・クラブの構成員

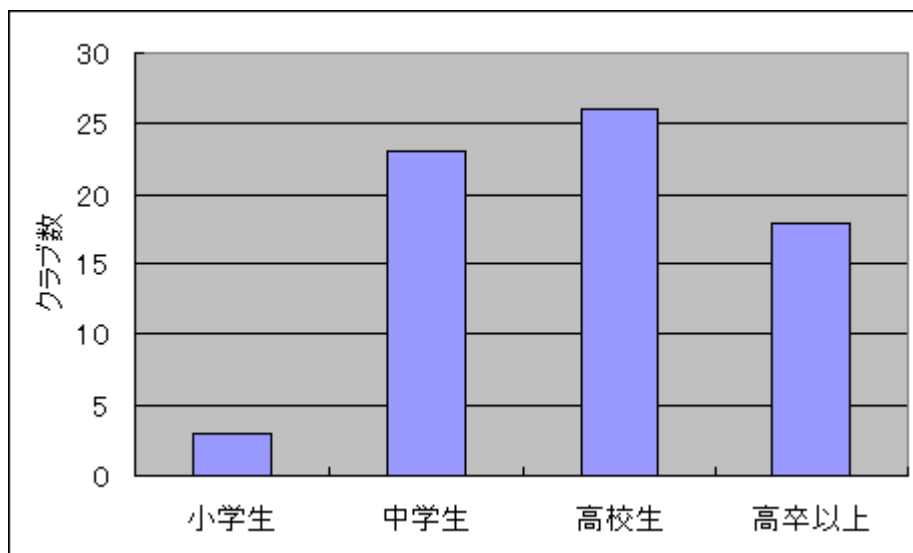


図4・クラブの構成員

複数選択可のため、大きな数字になっています。

見て分かるように、ジュニアリーダーは、中学生や高校生を中心に構成されていることがわかります。特に高校生は、全クラブの96%...つまり、ほぼすべてのジュニアリーダークラブの構成員となっています。また、約7割のクラブに高校を卒業したメンバーが所属しています。従来、高校を卒業したら引退というケースが多かっただけに、これも高い数字と言えるでしょう。

逆に、ジュニアリーダーに小学生が構成員として所属するところは少数であることがわかります。

さて、この結果を、選択したパターン別に分けてみました。

構成パターン	クラブ数
小・中・高・卒	3
中・高	8
中・高・卒	12
高・卒	2
高	1
卒	1

表5・クラブ員の構成パターン

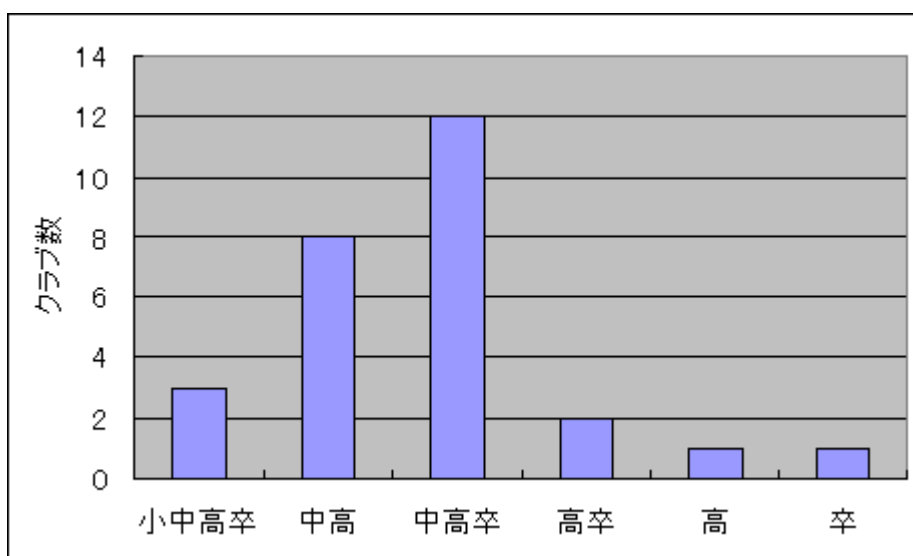


図5・クラブ員の構成パターン

「中学生・高校生・高卒」のパターンが多く、次いで「中学生・高校生」となっています。
 中学生だけ、高校生だけのクラブは少数で、子ども会と同様、異年齢集団を形成しているということがわかります。
 特に、小学生が構成員となっているクラブは、すべてが「小学生・中学生・高校生・高卒」という、非常に幅広い年齢層で構成されていることは注目すべきところでしょう。

構成パターンと参加率の関係

さて、クラブ員の構成パターンと参加率の関係をしてみましょう。

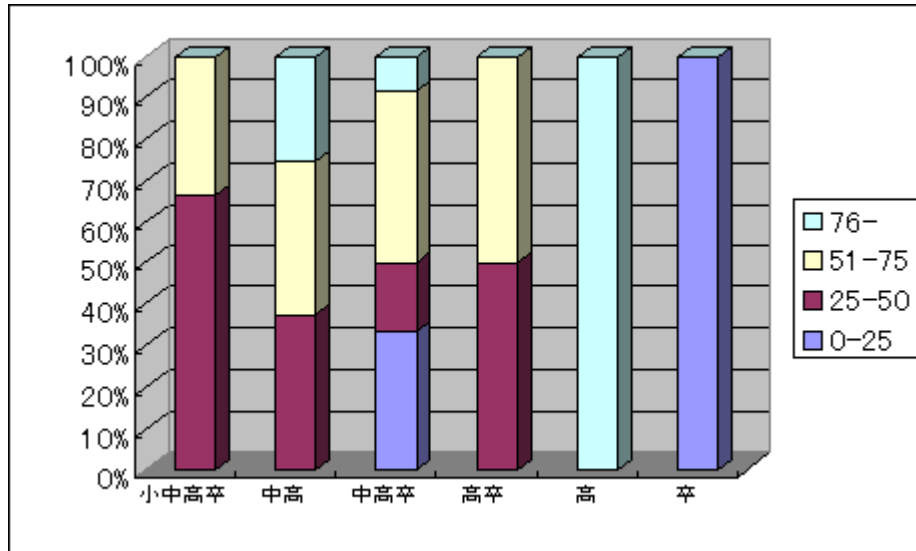


図6・構成パターン×参加率

右参加率・下構成員	A. 0 ~ 25%	B. 26 ~ 50%	C. 51 ~ 75%	D. 76%以上	計
小・中・高・卒	0	2	1	0	3
中・高	0	3	3	2	8
中・高・卒	4	2	4	2	12
高・卒	0	1	1	0	2
高	0	0	0	1	1
卒	1	0	0	0	1
計	5	8	9	5	27

表6・構成パターン×参加率

図6を見てみましょう。
 参加率51%以上の割合は、「小中高卒」「中高」「中高卒」「高卒」いずれもほとんど変わりありません。
 つまり、どんなに年齢層が幅広くても、そのことが会員の参加意欲に直接関係することはないということです。

構成パターンと会員数の関係

では、構成パターンと会員数の関係はどうでしょうか。

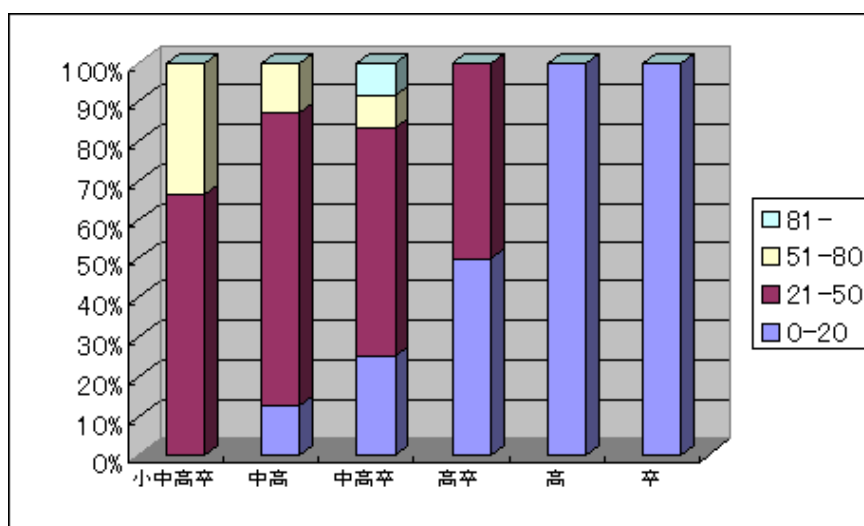


図7・構成パターン×会員数

右会員数・下構成員	A.0~20人	B.21~50人	C.51~80人	D.81%以上	計
小・中・高・卒	0	2	1	0	3
中・高	1	6	1	0	8
中・高・卒	3	7	1	1	12
高・卒	1	1	0	0	2
高	1	0	0	0	1
卒	1	0	0	0	1
計	7	16	3	1	27

表7・構成パターン×会員数

図7から、年齢層が幅広いほど、会員数が多い傾向があることがわかります。

報告(3) 育成者の関わり方

次に、子ども会の育成者の方々が、ジュニアリーダークラブにどのように関わっているかを聞いてみました。

Q. 子ども会の育成者は定例会に参加しますか？

選択肢：

- a. 毎回必ず定例会に参加し、積極的に意見を出す
- b. 毎回必ず来るが、見守るだけ
- c. 時々定例会に来るが、毎回ではない
- d. まったく参加しない
- e. その他

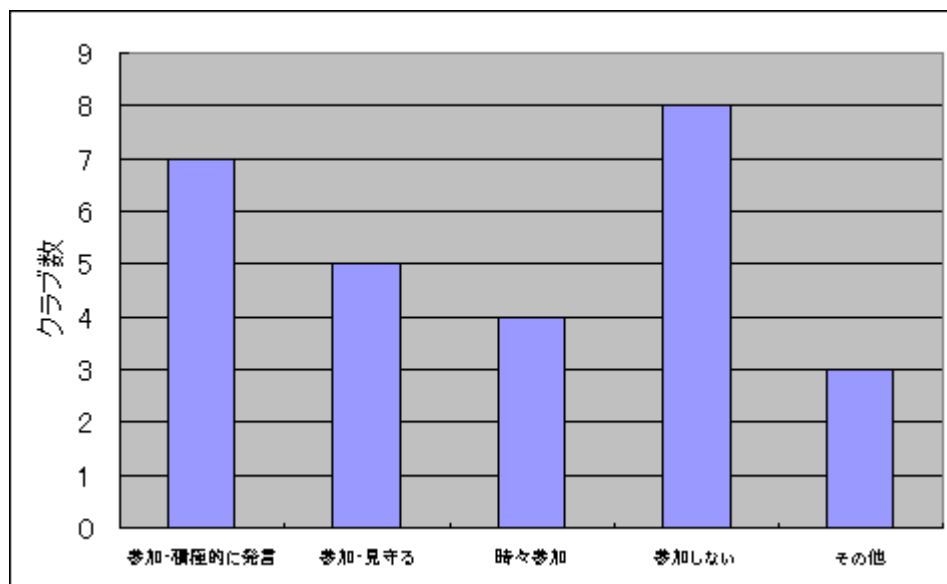


図8 育成者の参加

育成者の関わり方	クラブ数
a.毎回必ず定例会に参加し、積極的に意見を出す	7
b.毎回必ず来るが、見守るだけ	5
c.時々定例会に来るが、毎回ではない	4
d.まったく参加しない	8
e.その他 ・ジュニア育成会の人毎回誰か来る ・独立行政法人のため育成者とは無関係 ・JLの担当者からのみの参加	3
合計	27

表8 育成者の参加

a.b.c.をあわせて、全体の3分の2のクラブでは何らかの形で育成者が定例会に参加していることがわかります。特に、25%のクラブでは、毎回育成者が定例会に参加し、積極的に発言を行っています。一方で、約3割のクラブでは、育成者は定例会に全く参加していません。育成者の関わり方は、クラブによって大きく異なることがはっきりと示されています。

育成者の参加と参加率の関係

では、育成者の定例会への関わり方と、参加率の関係はどのようになっているのでしょうか。

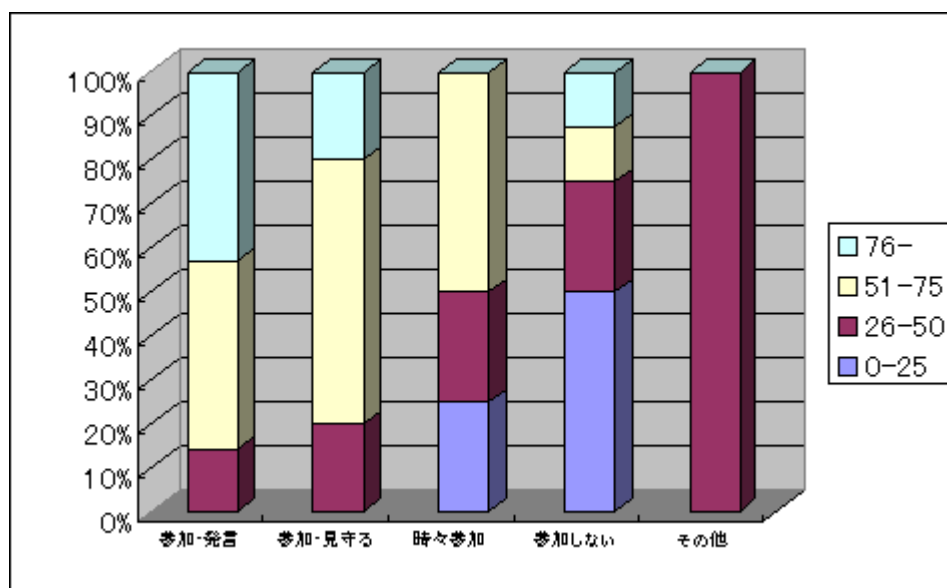


図9・育成者の関わり方 × 参加率

右参加率・下育成者の関わり方	A. 0 ~ 25%	B. 26 ~ 50%	C. 51 ~ 75%	D. 76%以上	計
a. 毎回必ず定例会に参加し、積極的に意見を出す	0	1	3	3	7
b. 毎回必ず来るが、見守るだけ	0	1	3	1	5
c. 時々定例会に来るが、毎回ではない	1	1	2	0	4
d. まったく参加しない	4	2	1	1	8
e. その他	0	3	0	0	3
計	5	8	9	5	27

表9・育成者の関わり方 × 参加率

図9にはっきりと結果があらわれました。

育成者の定例会への関わりの度合いが大きいくほど、会員の参加率が高いことがわかります。

よく、育成者が定例会に参加しない理由として「ジュニアリーダーの自主性を尊重するため」というものが挙げられますが、少なくとも会員の参加意欲は、育成者がより多く定例会に関わりを持ったほうが高くなるということです。

これは、育成者が顔を出すことで、ジュニアリーダーと育成者の信頼関係が出来やすくなることや、ジュニアリーダー自身では目が行き届かないところにも育成者は目が届きやすいこと、何か問題が起きたときに助言を得やすいこと...などから、それが安定したジュニアリーダーの参加に結ぶついているのだと考えられます。

他方、一番割合が大きかった「育成者はまったく参加しない」クラブは、参加率の高いクラブも見られる一方、参加率の低いクラブが突出して多いことがわかります。

育成者の助けを借りられないことから自主的な運営がなされる反面、それがうまくいかないと、クラブ員の意欲の低下につながってしまうということでしょう。

育成者の参加と会員数の関係

育成者の定例会への関わり方と、会員数の関係についてはどうでしょうか。

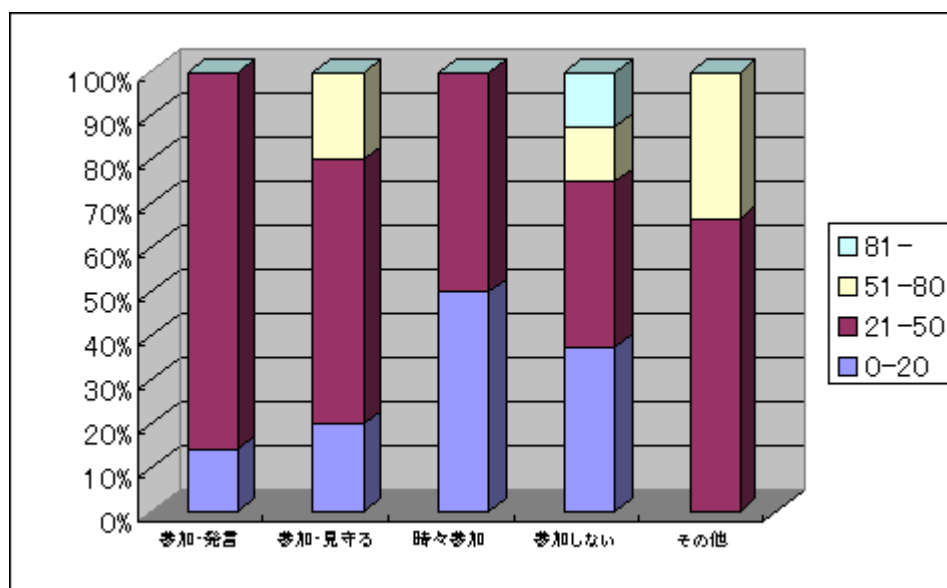


図10・育成者の関わり方×会員数

右会員数・下育成者の関わり方	A.0～20人	B.21～50人	C.51～80人	D.81人以上	計
a.毎回必ず定例会に参加し、積極的に意見を出す	1	6	0	0	7
b.毎回必ず来るが、見守るだけ	1	3	1	0	5
c.時々定例会に来るが、毎回ではない	2	2	0	0	4
d.まったく参加しない	3	3	1	1	8
e.その他	0	2	1	0	3
計	7	16	3	1	27

表10・育成者の関わり方×会員数

これに関しては、相関関係は見られませんでした。
育成者の関わり方によって会員数が変動するわけではないということです。

報告(4) 高校を卒業したメンバーの関わり方

次に、高校を卒業したメンバーが、ジュニアリーダークラブにどのように関わっているのか、聞いてみました。

Q. 高校卒業のメンバーはどうしますか？

- 選択肢：
- a. 中学生・高校生と同じようにメンバーとして活動
 - b. 定例会に参加するが、シニア(OB)のアドバイザー的役割
 - c. 定例会に参加しないが、行事などには顔を出す
 - d. 引退して、まったく関わりがなくなる
 - e. その他

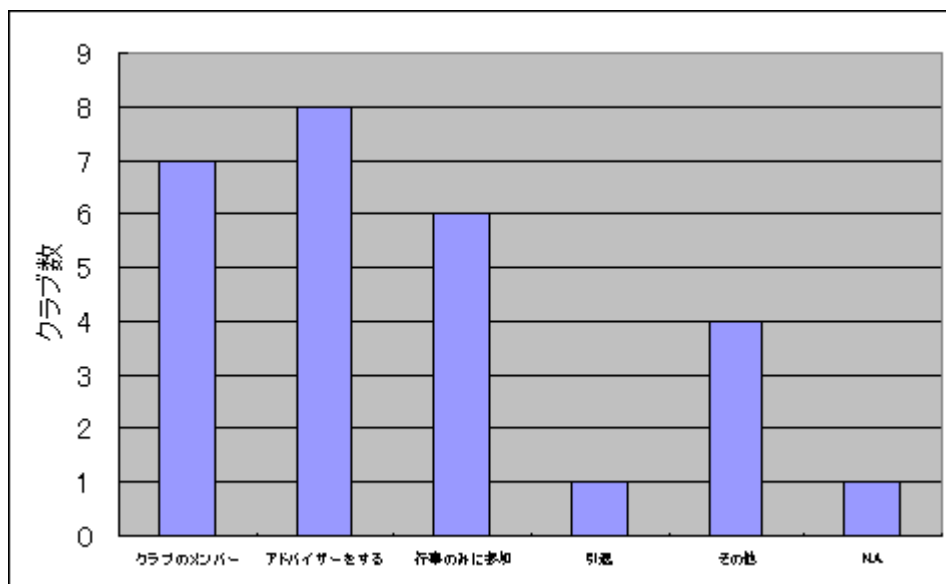


図 11・高卒メンバーの関わり方

高校卒業メンバーの関わり方	クラブ数
a.中学生・高校生と同じようにメンバーとして活動	7
b.定例会に参加するが、シニア(OB)のアドバイザー的役割	8
c.定例会に参加しないが、行事などには顔を出す	6
d.引退して、まったく関わりがなくなる	1
e.その他 ・育成会に入会する ・時々連絡はとる ・人それぞれ	4
N.A.	1
計	27

表 11・高卒メンバーの関わり方

さて、次に、高校を卒業したメンバーの、クラブへの関わり方を聞いてみました。

一般に(北海道など地域によって呼称は違うが)、「ジュニアリーダー」とは中学生や高校生のことを指し、それ以上の年齢と区別するからです。

高卒メンバーは「シニアリーダー」「青年リーダー」「ユースリーダー」「OB(OG)」「集団指導者」など、呼称もさまざまです。

そうした現状を反映してか、現状の高卒メンバーのジュニアリーダーへの関わり方も、クラブによってかなり異なるということがわかります。

そのままメンバーとして活動を続けるところもあれば、行事に顔を出す程度のところもあります。「その他」をみると、子ども会の育成会に入会するところや、関わり方は個人個人の自由にしているところもありました。

意外だったのは、「引退してまったく関わりがなくなる」と答えたところがほとんどなかったことです。

このことから、高校を卒業したメンバーは、関わり方は多種多様だけれども、何らかの形でジュニアリーダーに関わりつづけていることがわかります。

高校卒業メンバーの関わり方と参加率の関係

さて、そうした多種多様な高卒メンバーの関わり方と、参加率の関係はどのようになっているのでしょうか。

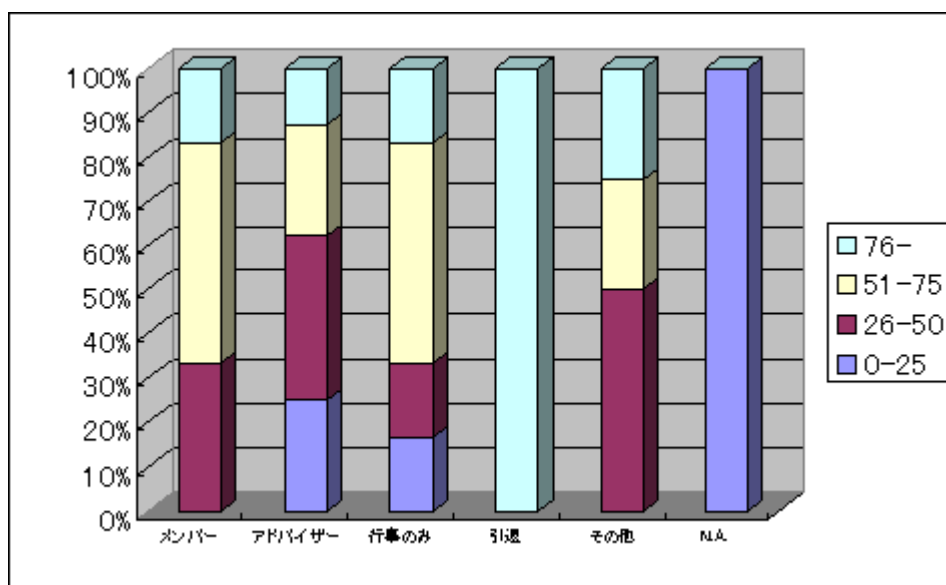


図 12・高卒メンバーの関わり方×参加率

右参加率・下高卒メンバーの関わり方	A. 0～25%	B. 26～50%	C. 51～75%	D. 76%以上	計
a. 中学生・高校生と同じようにメンバーとして活動	1	2	3	1	7
b. 定例会に参加するが、シニア(OB)のアドバイザー的役割	2	3	2	1	8
c. 定例会に参加しないが、行事などには顔を出す	1	1	3	1	6
d. 引退して、まったく関わりがなくなる	0	0	0	1	1
e. その他	0	2	1	1	4
N.A.	1	0	0	0	1
計	5	8	9	5	27

表 12・高卒メンバーの関わり方×参加率

今回のデータを見る限り、相関関係は見られませんでした。
つまり、高卒メンバーの関わり方は参加率にそれほど影響を与えていないということになります。

高校卒業メンバーの関わり方と会員数の関係

では、会員数との関係はどうでしょうか。

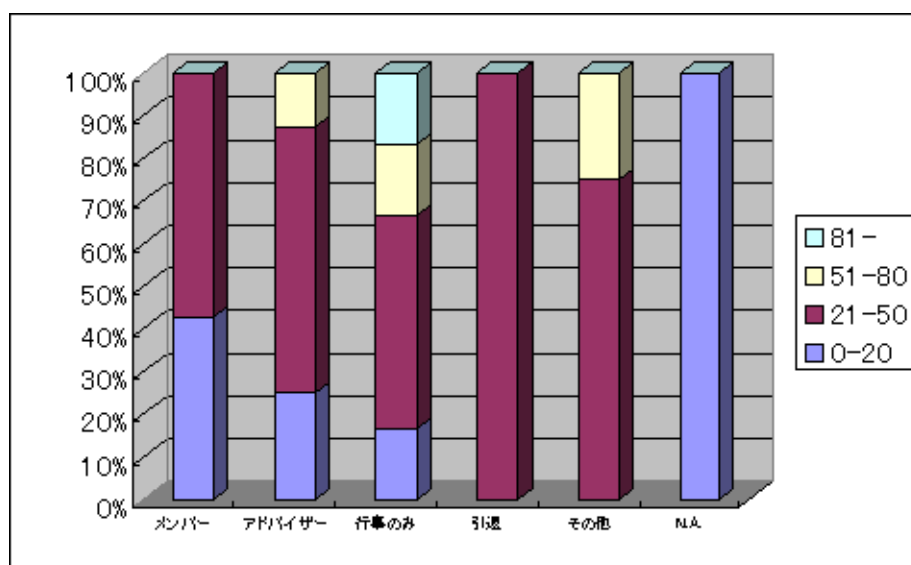


図 13・高卒メンバーの関わり方×会員数

右会員数・下高卒メンバーの関わり方	A. 0～20人	B. 21～50人	C. 51～80人	D. 81%以上	計
a. 中学生・高校生と同じようにメンバーとして活動	3	4	0	0	7
b. 定例会に参加するが、シニア(OB)のアドバイザー的役割	2	5	1	0	8
c. 定例会に参加しないが、行事などには顔を出す	1	3	1	1	6
d. 引退して、まったく関わりがなくなる	0	1	0	0	1
e. その他	0	3	1	0	4
N.A.	1	0	0	0	1
計	7	16	3	1	27

表 13・高卒メンバーの関わり方 × 会員数

高卒メンバーの関わりが深いほど会員数が少なく、関わりが少なくなるにつれて会員数が多いという傾向が見取れます。

これは、人数が少ないクラブでは高卒メンバーも含めてみんなで活動しないと活動がまわらなくなるからでしょう。

逆に人数が増えてくると、高卒メンバーがあまり深いかかわり方をすると中学生や高校生の意向を生かすのが大変なので、少し線を引いた関わり方をしているところが多くなる傾向があるといえます。

報告(5) 定例会の頻度

Q. 定例会の頻度はどのくらいですか??

選択肢： a. 年に数回 b. 2ヶ月に1回 c. 月1回 d. 月2回 e. 週1回 f. 毎日 g. その他

定例会の頻度	クラブ数
a. 年に数回	2
b. 2ヶ月に1回	3
c. 月1回	13
d. 月2回	5
e. 週1回	3
f. 毎日	0
g. その他	1
・週2回	
計	27

表 14・定例会の頻度

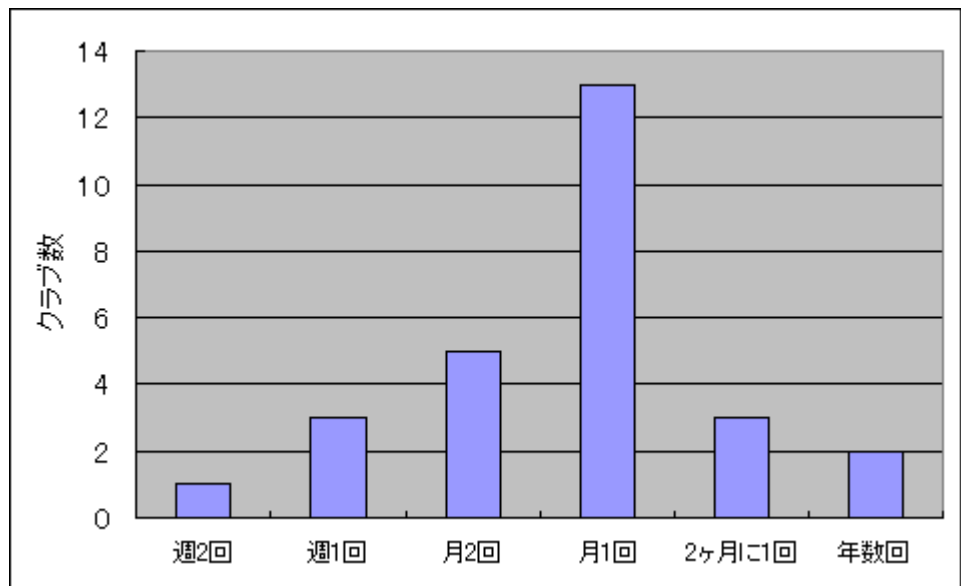


図 14・定例会の頻度

さて、次に、定例会の頻度について聞いてみました。

結果を見ると、「月1回」が圧倒的に多く、それを頂点に、山型の分布が見られます。

中には、週2回集まって定例会をしているところもありました。

これを考察してみましょう。塾や学校があり、月1回以上となると集まるのが大変になるので集まりにくい。けれども、それ以上間隔をあげると、仲間意識が薄れたり、自分たちの行事や、子ども会等の活動を分担するなどの活

動がしにくくなる。

そういったジュニアリーダーを取り巻く状況が、この結果から見えてくるのではないのでしょうか。

また、全員が集まるのが月1回でも、役員はその準備などで別の日に集まっている場合が多く、また、ジュニアリーダー活動は定例会だけではないため、たとえ定例会は月1回であっても、実際にはかなりの頻度で活動を行っているといえるでしょう。

定例会の頻度と参加率の関係

さて、定例会の頻度と参加率の関係を見てみましょう。

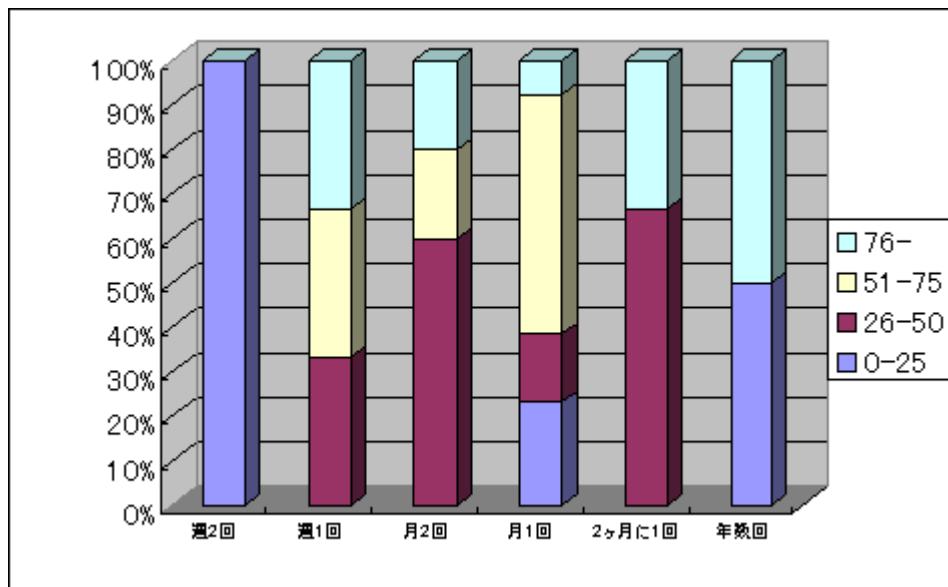


図 15・定例会の頻度 × 参加率

右参加率・下頻度	A. 0 ~ 25%	B. 26 ~ 50%	C. 51 ~ 75%	D. 76%以上	計
a.年に数回	1	0	0	1	2
b.2ヶ月に1回	0	2	0	1	3
c.月1回	3	2	7	1	13
d.月2回	0	3	1	1	5
e.週1回	0	1	1	1	3
g.週2回	1	0	0	0	1
計	5	8	9	5	27

表 15・定例会の頻度 × 参加率

まずわかるのは、「2ヶ月に1回」「年数回」など間隔がひらく場合、その参加率は著しく低い、著しく高いかの2極分化しているということです。

頻度が低い場合は、定例会がどのような位置付けのものなのか、明確化し、それを会員に明示していかないと、すぐに参加率の低下という形であらわれてきてしまうのではないのでしょうか。

その意味で、運営に工夫を要するといえるでしょう。

また、月1回、月2回、週1回を見比べていくと、それほど参加率の傾向に差はないものの、頻度が高くて参加率が低くなってはいないことは特筆すべきことではないのでしょうか。

これは、月2回、週1回などの場合、「毎週 曜日はジュニアリーダーの日だ」と、学校の部活動や塾などの習い事と同じように、ジュニアリーダー活動が日常の一部となってくるので、自然と足がジュニアリーダーに向きやすくなるということを示していると思われます。

定例会の頻度と育成者の関わり方の関係

さて、筆者は、定例会の頻度を決める要因の一つに、育成者の関わり方があるのではないかと予測を立てていました。そこで、頻度と育成者の関わり方を見てみたいと思います。

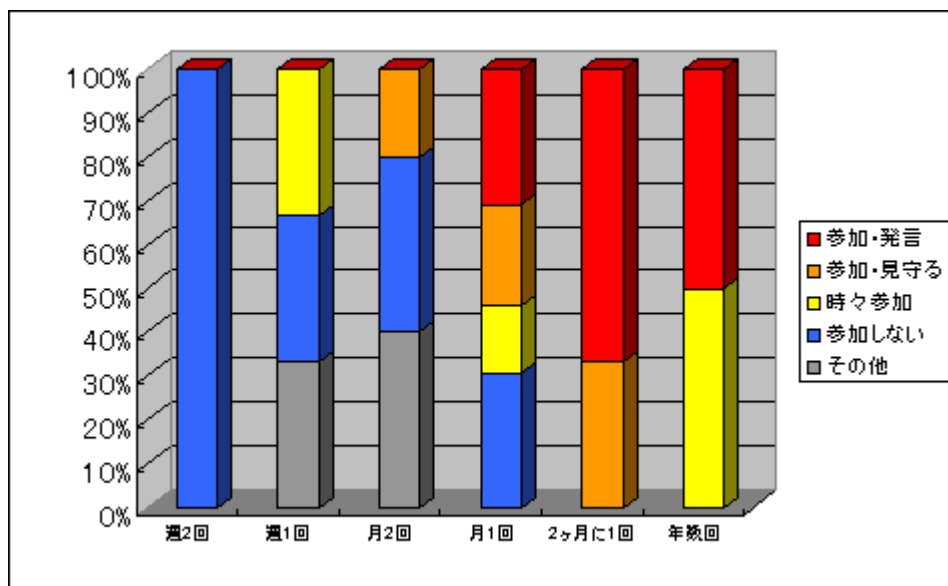


図 16・定例会の頻度 × 育成者の関わり方

右育成者・下頻度	A. 参加・発言	B.参加・見守る	C.時々参加	D.参加しない	E.その他	計
a.年に数回	1	0	1	0	0	2
b.2ヶ月に1回	2	1	0	0	0	3
c.月1回	4	3	2	4	0	13
d.月2回	0	1	0	2	2	5
e.週1回	0	0	1	1	1	3
g.週2回	0	0	0	1	0	1
計	7	5	4	8	3	27

表 16・定例会の頻度 × 育成者の関わり方

グラフは、黄色・橙・赤が何らかの形で育成者が定例会に参加していることを表し、青が参加していないことを表しています。

このことから、頻度が高くなるにつれて、育成者の参加が少なくなるという傾向がはっきりと見て取れます。

つまり、あまり定例会の頻度が高くなると、育成者は子ども会のことだけしているわけではなく、会社や家庭もあるため、ジュニアリーダーの定例会には関わりが持ちにくくなるということがわかります。

報告(3)で、育成者の参加が多いほど定例会の参加率はあがる傾向があることがわかりましたが、開催頻度が高くても何らかの形で参加してくれる熱心な育成者の存在が、ジュニアリーダーの意欲を高めることにつながるといえるでしょう。

報告(6) 定例会の日時は固定か、臨機応変か

Q. 定例会の日時はどうなっていますか？

- 選択肢： a. 毎月第 月曜日、などと固定している 具体的な日時
 b. 固定しないで、臨機応変に日時を変える 理由があれば

定例会の日時	クラブ数
a.固定	16
b.臨機応変	11
計	27

表 17・定例会の日時

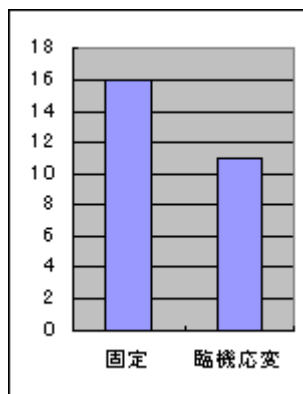


図 17・定例会の日時

さて、次に、定例会の日時について聞いてみました。

選択肢は、固定されているか、臨機応変かの2つになっています。

結果を見ると、固定しているクラブが3分の2ある一方、少なくない割合で、臨機応変に定例会を行っているクラブが見受けられました。

臨機応変にしているクラブに理由を尋ねたところ、様々な答えが返ってきました。

- ・ 育成者の都合にあわせるため(2)
- ・ 学校のテスト前後を避けるため(2)
- ・ 学校行事・部活の都合を考慮するため(2)
- ・ 受験生が多いため
- ・ 塾などの関係で
- ・ 依頼に対応するため
- ・ スケジュールのずれ違い
- ・ 定例会の企画内容に伴って変える
- ・ 社会人が多いため、なるべく全員が集まれる日にするため

これらを見ると、臨機応変に日時を変えているところは、日時を固定してしまうと、いちいち日時を調整する手間は省ける一方、テストや部活に重なってしまうことがあり、それらを避けて、より多くの人が集まれる日にしようと考えているところが多いとわかります。

定例会の日時の決め方と参加率の関係

では、実際には、臨機応変に日時を決めているところは、定例会への参加率が高いのでしょうか。

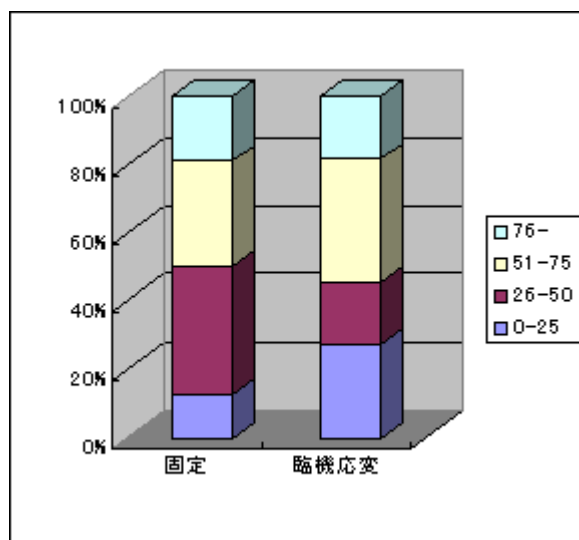


図 18・定例会の日時 × 参加率

右定例会の日時 下頻度	A. 0～25%	B. 26～50%	C. 51～75%	D. 76%以上	計
a. 固定	2	6	5	3	16
b. 臨機応変	3	2	4	2	11
計	5	8	9	5	27

表 18・ 定例会の日時×参加率

そうすると、意外な結果がわかります。固定も臨機応変も、参加率はほとんど変わらないのです。むしろ、臨機応変のほうが、「0～25%」という低い参加率のクラブの割合が多くなってさえいます。

これは、なぜでしょうか。

臨機応変に行くと、確かに会員の都合を考慮した日程が組めますが、その代わりに、毎回、連絡網などを使って、会員に定例会の日時のお知らせを行わなければなりません。

これがしっかりできていけば問題ないのですが、できない場合、末端まで、その情報が行き渡らなくなってしまいます。

臨機応変に定例会を行う場合には、しっかりとした連絡体制を作ることが大切であるということを、この結果は示していると言えるのではないのでしょうか。

固定しているクラブはいつ開催しているか

次に、固定しているクラブに目をむけてみましょう。

定例会を固定しているところは、具体的には、いつ定例会を行っているのでしょうか。

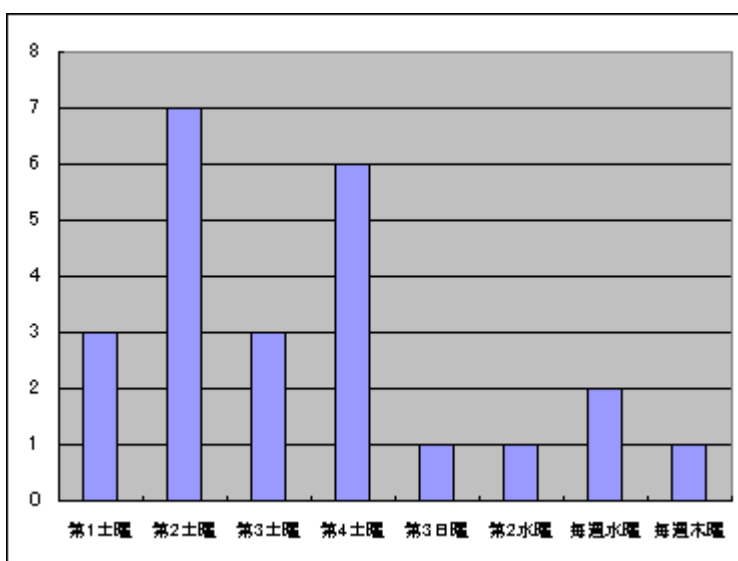


図 19・ 定例会の開催日

定例会の開催日	A. 参加・発言
・ 第 1 土曜	3
・ 第 2 土曜	7
・ 第 3 土曜	3
・ 第 4 土曜	6
・ 第 3 日曜	1
・ 第 2 水曜	1
・ 毎週水曜	2
・ 毎週木曜	1
計	24

表 19・定例会の開催日

月に何度も行っているところがあるので、「固定」と答えた16よりも数が大きくなっています。これを見ると、休日、特に土曜日に行っているところが圧倒的に多いことが見て取れます。

休日でも、日曜日に行っているところはほとんどありません。

これは面白い傾向だといえるでしょう。

以前、土曜日が休みになってきたときに、「土曜日は原則部活動は行わない」と決めていた学校が多かったため、その名残りでしょうか。

また、平日に行っているところは、週の半ばにある、水曜か木曜に行われています。

報告(7) 定例会の時間帯

続いては、定例会を開催する時間帯について聞いてみました。

Q. 定例会の時間帯はどうなっていますか？

a. 午前

b. 午後

選択肢:

c. 夜間

(* あてはまるものをすべてチェックしてください)

	クラブ数
午前	7
午後	14
夜間	12

表 20・定例会の時間帯

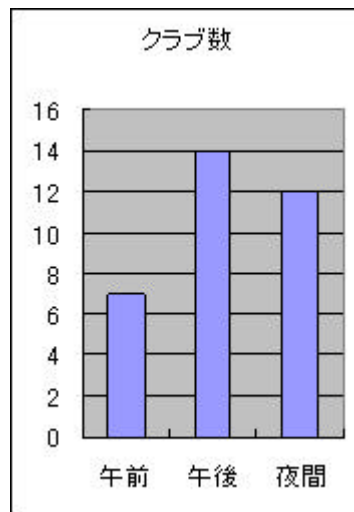


図 20・定例会の時間帯

複数の時間帯を連続して定例会を開いているクラブがあるため、合計数は、回答クラブ数を超えています。

午前・午後も連続して行っているクラブと、午後・夜間を連続して行っているクラブが、それぞれ3つありました。こうしてみると、午前中に定例会を行うクラブは少なく、午後と夜間はほぼ同数であることがわかります。

意外だったのは、夜間に行うクラブの多さです。夜間のみ行っているクラブの数は、午後のみ行っているクラブと同数ありました。これは、昼間よりも夜間は子ども会の活動にぶつかることが少ないことや、部活動が終わっており集まりやすいことなどが、要因に挙げられるでしょう。

定例会の時間帯と参加率の関係

では、どの時間帯に定例会を開くかは、参加率に影響を及ぼしているのでしょうか。

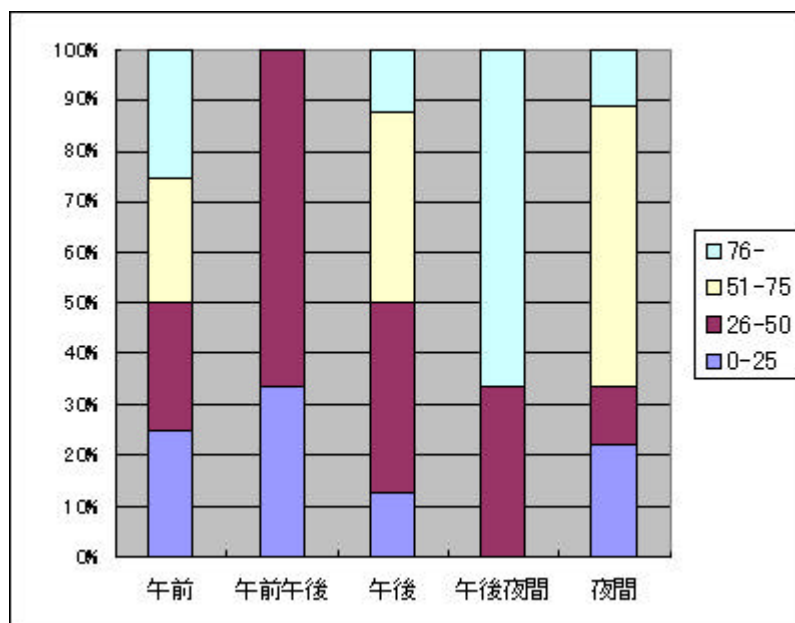


図 21・定例会の時間帯 × 参加率

	0-25	26-50	51-75	76-
午前	1	1	1	1
午前午後	1	2	0	0
午後	1	3	3	1
午後夜間	0	1	0	2
夜間	2	1	5	1

表 21・定例会の時間帯 × 参加率

図21から、それぞれの割合を見てみると、「午前午後」以外は、ほとんど似たような傾向を示しているといえるでしょう。つまり、「午前」「午後」「夜間」とも、その参加率の分布は大差がないということです。

つまり、どの時間帯に開催しても、参加率にはほとんど影響を及ぼさないということがわかります。

目に付くのは、「午前午後」に開催しているクラブの参加率がことごとく低いことです。「午前午後」の場合、定例会に1日を割かなければならず、部活動など別の用件を抱えていると、参加しにくくなってしまふからだと考えられます。

それでは「午後夜間」にも同様のことが言えそうですが、こちらは参加率の高いクラブの割合が高くなっています。「午後夜間」の区分には、夕方に集まって3時間ほど行う…という形のものがほとんどであり、それほど長い時間を使って定例会を行っていないためだと言えるでしょう。

つまり、参加率は、時間帯よりも、定例会を行う時間の長さに影響を受けているようです。定例会を「イベントを行う場」として捉えているか、「会議を行う場」として捉えているかによりますが、少なくとも「会議を行う場」として捉えている場合は、あまり長い時間を費やして定例会を行うと、参加率の伸び悩みにつながりやすくなると考えられるのです。

定例会の時間帯と構成員の関係

では、時間帯と構成員の関係は、どうなっているのでしょうか。

よく、昼間に定例会を行う理由に、「中高生が主体だから」ということを挙げるところがあります。

そうすると、夜間に中高生は少ないという傾向が出てくるのでしょうか。

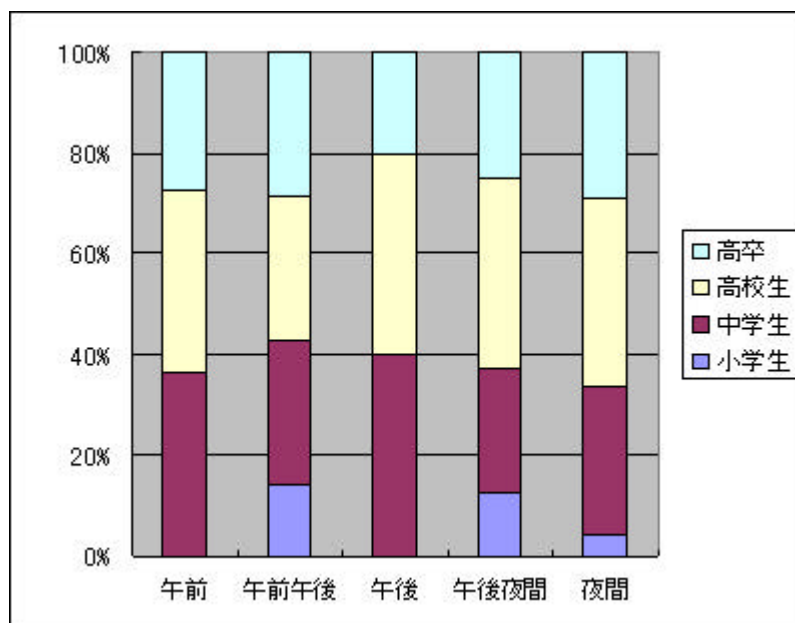


図 22・定例会の時間帯 × 構成員

	小学生	中学生	高校生	高卒
午前	0	4	4	3
午前午後	1	2	2	2
午後	0	8	8	4
午後夜間	1	2	3	2
夜間	1	7	9	7

表 22・定例会の時間帯 × 構成員

すると、そういった傾向は全くないということがわかります。

つまり、どの時間帯でも、構成員の割合は、きれいに似たような傾向を示しました。

中学生や高校生が主体のジュニアリーダーでも、夜間に定例会を行うところはかなりあるということです。

昨今、中学生や高校生のかかなりの割合の人が、塾や予備校に通っています。それらの時間帯は、学校の放課後…得てして、夜間に行われているのです。

こうした時代を背景に、保護者からも、夜間にジュニアリーダーが定例会を開くことは、あまり違和感なく受け入れられてきているということが、ここから明らかになったのではないのでしょうか。

報告(8) 定例会の会場

さて、今度は定例会を行っている場所を聞いてみました。

Q. 定例会のどこで行っていますか？

- a. 公共施設の会議室
- b. 体育館

選択肢： c. 誰かの家

d. ファミレス

c. その他

	クラブ数
a.公共施設の会議室	24
b.体育館	1
c.誰かの家	0
d.ファミレス	0
e.その他	2
合計	27

表 23・定例会の時間帯

「公共施設の会議室」が圧倒的に多い結果となりました。

会議室は、机や椅子をかたせば、あまり走り回らない範囲でレクリエーション活動を行ったりすることも可能であったりして、応用が利くので、ジュニアリーダーにとって利用しやすいからでしょう。

「その他」には、「公共施設のクラブ専用の部屋」「サークル専用活動ルーム」が書かれていました。これは、次の報告とあわせて述べていきます。

報告(9) 毎日集まれる場所の有無

この質問は、直接定例会とは関係ないのですが、ジュニアリーダーが毎日集まれるような場所があるかどうか、聞いてみました。

Q. JL が毎日集まれる場所がありますか？

- 選択肢： a. ある
b. ない

	クラブ数
ある	16
ない	11
合計	27

表 24・JL が毎日集まれる場所

すると、意外な結果が出てきました。

ジュニアリーダーが毎日集まれるような場所が「ある」と答えたところが、過半数を占めたのです。非常に漠然とした質問であったため、回答者によってその捉え方が異なるからかもしれませんが、ジュニアリーダーが、日常的に活動できる土壌があるところは、多いということなのです。

これは、ジュニアリーダーが本来地域活動であることから考えて、望ましいことであるといえるでしょう。

特に、報告(8)で回答にあった「サークル専用活動ルーム」のあるクラブは、「活動ルームへ行けば誰か仲間がいる」状態にあるわけであり、より深い形で、ジュニアリーダー同士が付き合いを重ねていくことができるといえるでしょう。

これは、山形県上山市の「あすなる」というジュニアリーダーサークルが始めたもので、「山形方式」と呼ぶそうです。

#JL が毎日集まれる場所の有無と参加率の関係

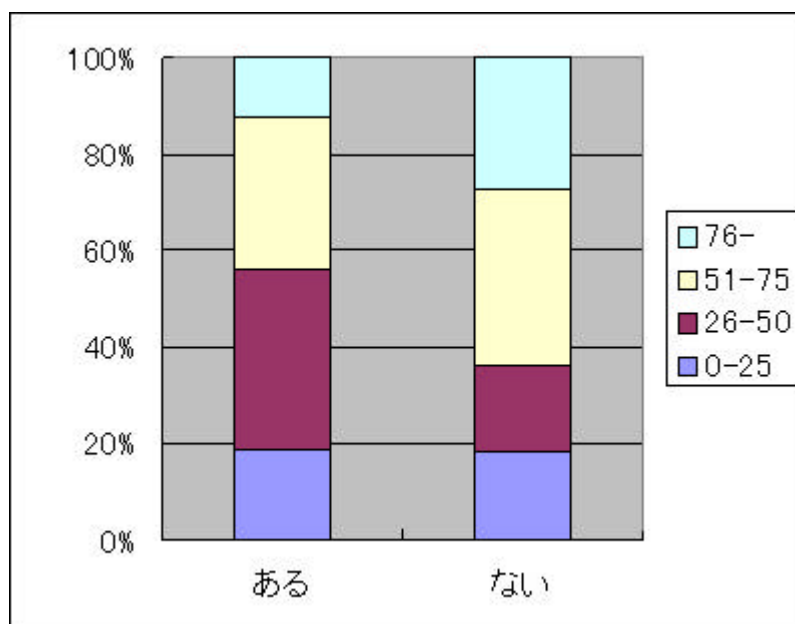


図 23・JL が毎日集まれる場所の有無 × 参加率

下・毎日集まれる場所/右参加率	0-25	26-50	51-75	76-	計
ある	3	6	5	2	16
ない	2	2	4	3	11
計	5	8	9	5	27

表 25・JL が毎日集まれる場所の有無 × 参加率

ただし、これが定例会の参加には必ずしも結びつかないということが、図 23 および表 25 から見えてきます。毎日集まれる場所が「ない」と回答したクラブのほうが、会員の参加率が良いのです。毎日顔をあわせられるとの余裕があると、数回の会議に「出席するぞ!」という意欲が減退してしまうということなのではないでしょうか。

報告(10) 定例会の日程

次に、定例会の平均的な日程を聞いてみました。

ここでは、回答して下さった方のうち、「ホームページに載せてもよい」と回答があった方については、クラブ名入りで、「載せてはいけない」と回答があった方については、クラブ名なしで、回答を載せていきます。

Q. 定例会の平均的な日程(すごし方)をできるだけ詳しく書いてください。

これは回答当時のことなので、現在回答クラブが行っている内容とは異なっている場合があります。

午前に行うところ

茅ヶ崎市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
10:00	開始 派遣事業の報告(派遣事業のその時の状況と反省を報告)
10:30	派遣依頼のメンバー決め
11:00	その他(市役所や育成会・県からのお知らせ、要望、JLC活動<各市との交流会やゲーム講習会、自主研修、会>等の話し合い)
12:00	終了

鎌倉市シニアリーダーズクラブ

時間	内容
10:00	開始
	1.先月の依頼行事の報告と反省 2.今月の依頼行事のお知らせと参加者確定 3.研修会等の打ち合わせ報告とプログラム打ち合わせ 4.その他(市の担当者からの連絡) 5.来月定例会の日時決定
12:00	終了

尾道市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
9:30	開始
10:00	次の活動の準備
11:30	JLのフリートーク (コミュニケーションをとり年齢の差を取り外す)
12:00	終了

尾道市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
9:30	育成者のはじめの挨拶 出欠の確認
9:40	前回の行事の反省(一人ひとり) これからの行事予定確認 行事の準備
	時間があまれば、ゲーム講習
12:00	終了

日出町ジュニアリーダーズクラブ「Dotton2」

時間	内容
10:00	開始
	活動計画・準備 レクリエーションの講習
12:00	終了

午前～午後に行うところ

日向市ジュニアリーダーズクラブ「伝々夢詩」

時間	内容
9:00	開始の挨拶 ・討議&講義等 ・前回活動の反省等 ・その他(次の子ども会派遣や活動についてなど)
12:30	昼食
13:30	午後の活動開始 ・午前で決まらなかったことの話し合い ・レクリエーション講習 ・レクダン
15:00前	片付け
15:00	終了

時間	内容
9:00	開始 話し合い・討議等
12:00	昼食
13:00	レクリエーション
15:00	終了

袖ヶ浦市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
10:00	全体交流レクリエーション 班分けレクリエーション 班内交流レクリエーション
12:00	みんなでご飯
13:00	班対抗レクリエーション 全体交流レクリエーション
	これは、6月に行った定例会です。 他にもいろんなことをします！！
16:00	終了

小山シニアリーダーズクラブ

時間	内容
10:00	開始 企画の趣旨や必要事項の説明 企画のテーマ、目的を考える (場所や対象、人数が決まっている場合はその情報を伝える) 本部、会計、渉外などの係り決め
11:00	各個人でプログラムを作成 ・日程を作成 ・日程表の中の企画の目的の明文化 ・企画に必要な物品や予算
13:00	それぞれのプログラムを比較検討しよいところ取りをしてプログラムを作成
13:45	プログラム内の企画を話し合い、グレードアップを図る 平行して予算案作り
16:00	係りごとに別れ必要な情報集めや流れ動きを検討する
17:00	第1企画案完成(3~4回は作りなおし完成度を高める)
18:00	終了

午後に行うところ

ジュニアリーダーズクラブ「せっぺの会」

時間	内容
13:30	開始 定例会の会議内容を発表 行事や活動の計画について話し合い 育成者が大まかな内容を説明し、中身を話し合う
14:30	レクリエーションで息抜き (これがメインだったりする)
15:30	会議再開
16:30	終了

富谷町ジュニアリーダーサークル「ありんこ」

時間	内容
13:00	開始 行事についての話し合い！
17:00	終了

越谷市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
13:00	開始 イベントの会議
15:00	休憩
15:10	依頼の連絡
15:40	レクなど、研修を行う
16:30	終了

碧南市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
13:30	年間計画に沿った内容を行う。 子ども会派遣がある場合は派遣リーダー・内容等を検討する。
16:00	終了

東住吉 JLC

時間	内容
13:00	・派遣報告会 ・単位活動報告 ・イベント企画
15:00	休憩
15:15	続き
17:00	終了

松江市ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
13:00	開始
13:05	出欠の確認(名簿にチェック) 前回の反省/依頼の確認等
13:30	各月のメニューをする(3月の総会で、定例会の内容をたてているので、それをする) 今年度の例： 4月 グループワークトレーニング 5月 レク～導入レクを覚えよう～ 6月 バルーンアート 7月 レク～最近気になるレク～(仮題) 8月 松江 JL 宿泊研修会 9月 レク(詳細未定) 10月 クラフト 11月 レク(詳細未定) 12月 クリスマス会 1月 松江市民憲章かるた大会事前研修 2月 レク～市民憲章をもりあげよう～(仮題) 3月 総会
15:30	片付け
16:00	終了

夕方に行うところ

三木ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
16:00	開始の挨拶
16:05	子ども会の派遣などの決めることなどの話し合い
17:00	5分トイレ休憩 その後、決め事の続き
17:30	ゲーム研修
17:55	片付け
18:00	終わりの挨拶 会費の回収

時間	内容
16:00	開始
	月々の行事に向けての話し合い(ゲーム研修もあり)
18:00	ゲームやダンス研修をするときもあり。
19:00	終了

豊浜ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
17:00	開始
17:10	議題について話し合い
19:00	終了

時間	内容
17:00	派遣事業 行事から
	終了

夜間に行うところ

富士見町ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
19:00	開始
19:10	前回の定例会から、今回の定例会までに、行われた行事の報告と感想
19:30	これからの予定(スケジュール)の公表。子ども会の要請等があるときは、このときに決めちゃいます。
20:00	これから、行われる行事の話し合い討議事項
20:20	次回の定例会の日程を決める
20:30	終了

こまち JLC

時間	内容
18:30	開始
18:40	行事の会議(プログラム、班付リーダー決め、ゲーム決め、etc.)
20:00	終了

東郷ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
19:30	開始
	レジュメを作り、それに沿って進めます。
	終了

門真市シニアリーダー協議会

時間	内容
18:30	開始 集まって、まず今日話し合う事柄についての確認。 当会の場合、基本的に定例会は活動に向けての話し合いの場ですが、ネタがないときなどはお勉強会や研修会をしたりすることもあります。時間は早く終われるときはすぐに終わるときもあり、どれだけかかっても21:30までには終わるようにしています。
19:45	この時間を過ぎて定例会が完結しない場合は、ここでいったん休憩時間を取ります。トイレにいったり、飲み物を飲んだりしてます。(だいたい5分から10分くらい) 気分をリフレッシュして後半に入ります。
21:00	議題について話し合うのは、だいたいこの時間まで。あとは派遣やクラブ内の情報連絡の時間になります。
	(下記など活動が忙しくなると、その準備に追われることが多くなります。そういう時は臨時会を開催して対応してます。また、夏季などは土曜日に派遣要請が多くなるので、その場合は日曜日などの別の曜日を定例会開催にしています。また基本的に毎週開催ですが、年末年始だけはお休みしております)
21:30	終了

浦添市子ども会ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
19:00	開始 そのときに話し合うべきことを話す。 例えば、次の派遣依頼の確認や今後の活動について
20:30	ちょっとしたレク。 1つずつでもいいので後輩に教えている。
21:00	終了

大田区入新井ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
18:00	開始
18:30	遅れてきた奴らを待ち、やっと話し合いが始まる。かと思われるが・・・ 飲み物渡し。筆記容疑を持ってきていない奴らに紙とペンを配布。なんだかんだ行って時間を食う(15分) とりあえず、一番近い日程の行事の話し合いも意見交換。話が脱線しつつも進める。(大雑把な内容が決まる。)
20:00	中学生を帰宅させる(場合によっては21時まで、中学生帰宅の前に次回定例会の日時を決める?) 結構真剣に話し合う。詳しくまとってきたところでタイムテーブル(仮)を黒板に書く。 あーだこーだ言い合う。 21時に近づき大人が「そろそろ終わる?ここ閉まる(会議室)わよ」のいつもの言葉を喋りだす。
21:00	近くの激安ファミレスに行く。帰る奴は帰る。2時くらいまでは食いながら話し合い。
22:00	時間がないと本格的にあせりだす。 23時ちょい過ぎくらいに、これでいいだろう!みたいなタイムテーブル(仮)が完成する。
23:30	終了

羽曳野市青少年リーダー会

時間	内容
19:10	開始
19:11	出席者の記入(順番に一人ひとり名前を言う)
19:20	活動報告(前月の定例会から今月の定例会までの活動を報告。会議などの活動報告は司会が報告するが、研修などは参加したリーダーに内容等を全員にわかるように報告してもらう)
19:40	議案(今後の行事の予定や、派遣依頼への参加の呼びかけ)
20:00	その他(連絡事項など)
20:10	特に取り上げる事項をみんなで話す。(派遣依頼がたくさんあるときは、誰がどの派遣依頼に参加するのか、チーフは誰がするのか)時には、ゲーム研修やクラフト研修等(若いリーダーに教える)
20:??	三ヶ月に一度のお誕生会(食べながら飲みながら、みんなで交流。誕生日の人は今後の抱負等をみんなの前で報告)
21:00	終了

中村区竹の子ボランティアサークル

時間	内容
17:00	名古屋子ども会の歌
17:05	協議事項の話し合い
17:45	研修(ゲーム・ソング・キャンプ技術等の実技および知識)
18:45	連絡事項確認
19:00	ジュニアボランティアの部終了 高校生以上の定例会開始
	派遣依頼の振り分け 行事等の打ち合わせ 協議事項の話し合い 各部会(運営部・渉外部・広報部・育成部・庶務部) 各部会報告等
22:00	終了

大淵ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
19:00	開始
19:05	出席確認・欠席理由の確認
19:10	話し合い(インヤ、祭りなどのこと)
20:00	係り別の話し合い(プロ・マネ・カウ)
20:30	質問等、次回定例について。
21:00	終了

相模原市中央班シニアリーダーズクラブ

時間	内容
19:00	開始
19:10	ふる里まつり出店の件
20:00	子ども会ゲーム企画
21:00	終了

大宰府ジュニアリーダーズクラブ

時間	内容
17:00	開始 内容は近い行事の内容についてですので、毎回変わっていきます。
19:00	中学生、解散。 高校生(会内では核と呼ばれています)会議開始 内容は同上で近い行事についてです。
20:00	終了

こうしてみると、ひとえに「ジュニアリーダーの定例会」とは言いながら、その中身はクラブによって千差万別で、全く異なると言ってもいいほどの違いがあることがわかります。

まずは、大きく、3つのパターンに分けられるでしょう。

一つ目は、鎌倉、相模原、豊浜、小山などの、「会議を行うことを中心とする定例会」。これらでは、定例会のほとんどの時間を、次の企画や派遣依頼の打ち合わせと準備に費やしています。

二つ目は、松江、越谷、三木、中村区などの、「会議と研修の2本立ての定例会」。研修内容はレクリエーションに費やされているところが多いようです。「会議の合間に気分転換に行く」としたところも目につきました。

三つ目は、袖ヶ浦に代表される、「行事を行う定例会」。定例会自体が、誰かの企画した行事や研修となっているものです。

この3つのパターンの、どれが良くてどれが悪いかは、一概に言えるものではありません。

それぞれのクラブの実情や、そのクラブに求められているものにより、その積み重ねを通して出来上がってきたものが、こうした日程であるからです。

逆に言えば、もし現在、それぞれのクラブで問題を抱えているならば、他クラブの日程を参考にし、その良いところを吸収すると、抱えている問題を解決する糸口になるかもしれない、ということです。

そういった意味で、これを読む方には、ぜひ、参考にさせていただければと思います。

報告(11)1回の定例会までの準備回数

次に、1回の定例会までにどれくらい準備をするか、聞いてみました。

Q.1回の定例会までの準備回数は？

- 選択肢：
- a. 準備はしない
 - b. 1回くらい
 - c. 2回くらい
 - d. 3回以上
 - e. わからない
 - f. その他

	クラブ数
a.準備はしない	11
b.1回くらい	6
c.2回くらい	1
d.3回以上	2
e.わからない	0
f.その他	7
合計	27

表 26・定例会までの準備回数

結果を見ると、「準備しない」ところと、「準備する(1回~3回以上を足したもの)」ところが、ほぼ同数あることがわかりました。中には、定例会までの、3回以上準備を重ねているところもあります。

これらは、前項で取り上げた、行事として定例会を捉えているところや、主要メンバーで準備会を重ねているところです。つまり、前項で述べた「定例会の位置づけ」が、この結果に現れているといえるでしょう。

また、この設問では、「その他」と答えたところが多く見られました。その内容は、

- ・代表が会議内容を決め、PC係りにレジユメを作らせる
- ・会長が事前に用意し、当日役員(副会長等)が少し早めに来て用意をする。
- ・三役 + 会長は 9:00 に集合して準備
- ・状況による
- ・準備があるときは、何回か集まります
- ・会長・副会長がレジユメを作っています。
- ・研修内容によって異なる

…というものでした。

これらは、大きく分類して、2つに分けられます。

1つは、会長や副会長など運営にあたる人が準備を行っているもの。この場合、定例会の始まる少し前に集まって準備している場合が多いことがわかります。これを「1回の準備」として捉えて回答された方もいるでしょう。

もう1つは、「場合による」といったもの。その内容によって、準備をするときとしないときがある、ということです。ですから、「その他」を選択したところは、何らかの形で準備を行っていると考えても、おおよそ差し支えないでしょう。

定例会までの準備の有無と参加率の関係

では、準備回数は参加率に影響があるのでしょうか。

わかりやすくするために、「f.その他」を、先ほどの考察から、「準備する」と考えても良いと判断し、「1回~3回以上準備をする(設問b~d)」に「f.その他」を加えたものを「準備する」というひとつのカテゴリーにして、比較してみました。

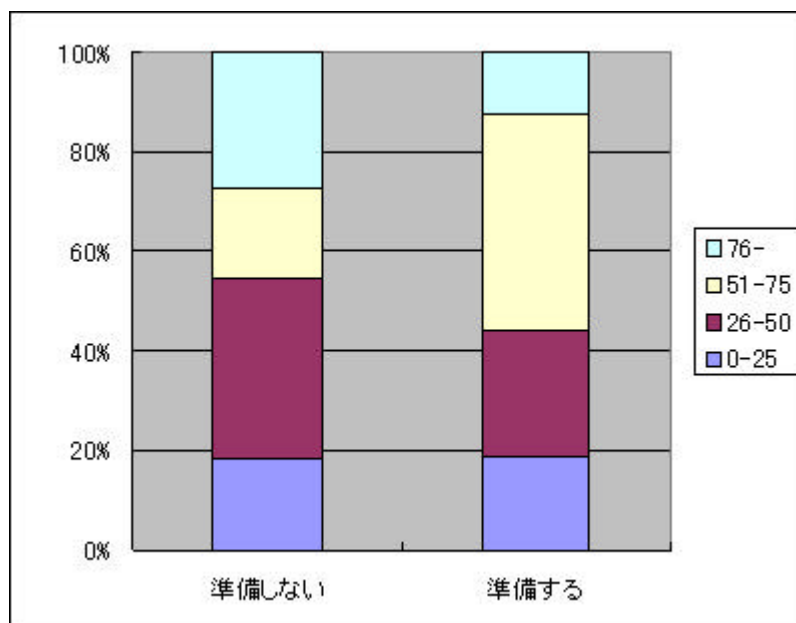


図 24・定例会までの準備 × 参加率

下準備/右・参加率	0-25	26-50	51-75	76-	合計
準備しない	2	4	2	3	11
準備する	3	4	7	2	16
合計	5	8	9	5	27

表 27・定例会までの準備 × 参加率

すると、「準備する」のほうが、参加率50%以下のクラブの割合は多少少ないものの、「0~25%」の割合はほぼ同じであり、「76%以上」の割合はむしろ、「準備しない」のほうが大きいなど、微妙な結果が見えてきました。

準備をしっかりといても、いざ定例会を開いてみると、参加する人がわずかであるクラブが少なくない一方、全く準備を行っていても、ほとんどの会員が定例会に出席するクラブもかなりあるのです。

つまり、一概に「準備をしたほうが参加率が高い」とは言えないことがわかります。これは、ジュニアリーダーが、「活動の計画性」よりも、他のことに関心があるということの表れと、言えるのかもしれませんが。

定例会の頻度と、準備の有無の関係

では、定例会の頻度に、準備の有無は影響されているのでしょうか。

定例会の頻度が高いクラブほど、準備ができないのではないかと考えられますが、実際はどうなのでしょう。

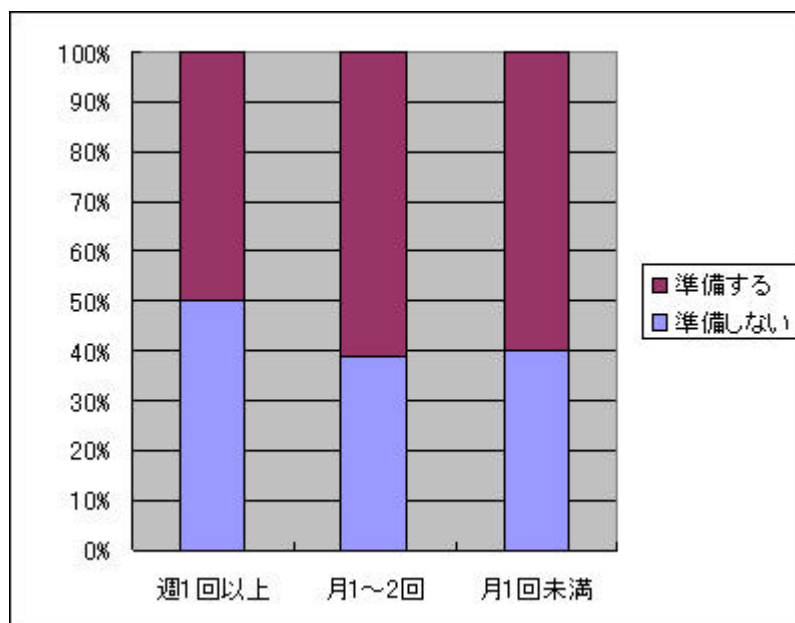


図 25・定例会の頻度 × 定例会までの準備

	週1回以上	月1~2回	月1回未満	合計
準備しない	2	7	2	11
準備する	2	11	3	16
合計	4	18	5	27

表 28・定例会の頻度 × 定例会までの準備

結果は、図25を見るとわかるように、予想と異なり、頻度には関係ないというものでした。わずかに「週1回以上」のところは「月1~2回」や「月1回未満」よりも、「準備しない」の割合が大きいです。それでも、これは大きな差ではなく、「準備する」と回答したところも、かなりの割合を占めています。

準備しているところは、どんな頻度でも準備をするし、準備しないところでは、年数回でも準備はしないということです。つまり、結局のところ、準備を行うかどうかは、他の事項にほとんど影響を与えていないのです。

報告(12) 定例会を主に進める人

では、定例会を主に進める人は、誰なのでしょう。

Q. 定例会を主に進める人は誰ですか？

各自、記述して回答してもらいました。

	クラブ数
会長(部長、代表なども含む)	12
会長と副会長	4
会長と担当者(実行委員長も含む)	3
副会長	2
役員で交代制	1
会長と高校生	1
高校生キャップ	1
会長と育成者	1
育成者	1
シニア	1
合計	27

表 29・主に進める人

選択ではなく、各自に記述してもらったため、多様な回答が出てきました。

1人ではなく、「会長と副会長」など、複数で進めているところも、かなりの割合であるということが、わかります。

それでは、これを「会長」「役員」など、役割別にまとめてみると、どうなるでしょうか。

役割	クラブ数
会長	21
副会長	6
担当者	3
育成者	2
役員	1
高校生	1
高校生キャップ	1
シニア	1
合計	36

表 30・主に進める人

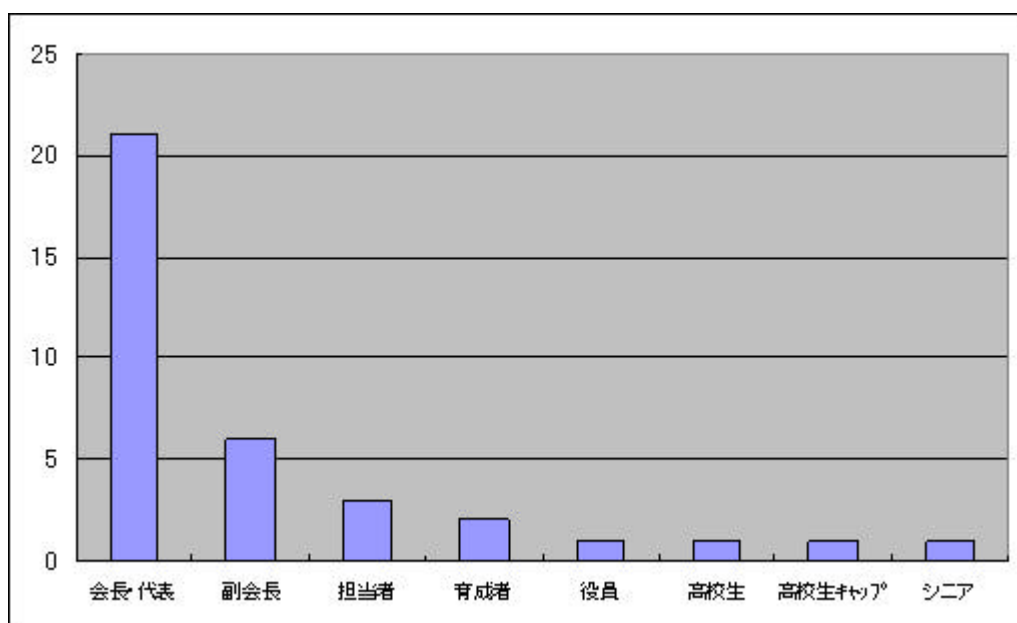


図 26・主に進める人(役割別)

すると、ほとんどのクラブで、会長が、中心となって進行を行っていることがわかります。

単位子ども会において、子ども達は行事に参加するだけという、いわゆる「お客様子ども会」や「大人会」がかなりの割合を占めている現状が、大きな問題になっています。

そんな中、ジュニアリーダーの定例会が、ジュニアリーダー自身の手で進行・運営が行われていることは、特筆に値することではないでしょうか。

少なくとも、ジュニアリーダーでは、ジュニアリーダー自身による自主的な運営が行われ続けているのです。

報告(13) 定例会後の打ち上げ

次に、定例会が終わったあと、遊びに行ったり、お茶を飲んだりする、いわゆる「打ち上げ」を行っているかどうか、聞いてみました。

Q. 定例会のあと、打ち上げはしますか？

- a. 毎回やる
- b. 時々やる

選択肢： c. 禁止されてないがやらない
 d. 禁止されている
 e. その他

	クラブ数
a.毎回やる	3
b.時々やる	9
c.禁止されてないがやらない	15
d.禁止されている	0
e.その他	0
合計	27

表 31・打ち上げ

打ち上げを「やる」ところは、「毎回」「時々」あわせて12のクラブ、回答クラブ全体の44%でした。約半数のところは、何らかの「打ち上げ」を行っていることがわかります。

打ち上げと参加率の関係

では、打ち上げを行うところと、行わないところでは、参加率に違いはあるのでしょうか。

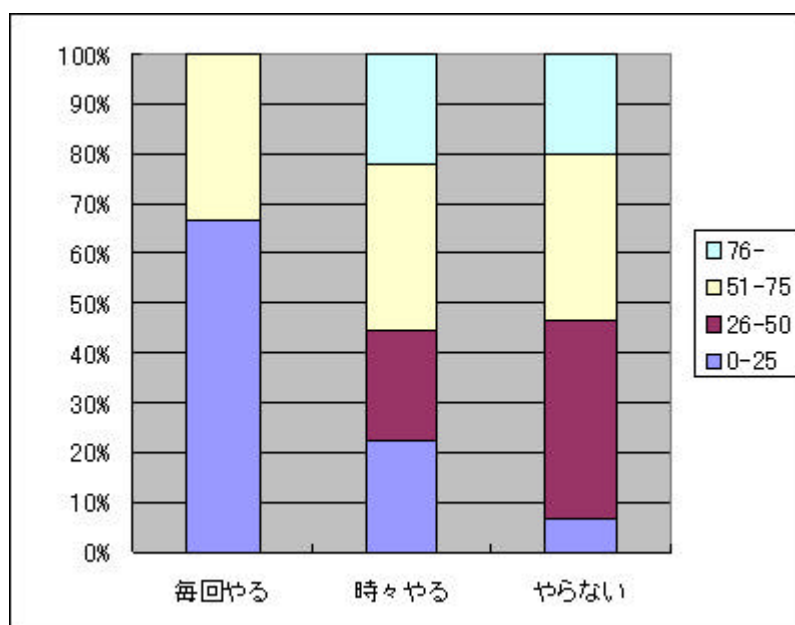


図 27・打ち上げ × 参加率

下・打ち上げ/右参加率	0-25	26-50	51-75	76-	合計
毎回やる	2	0	1	0	3
時々やる	2	2	3	2	9
やらない	1	6	5	3	15
合計	5	8	9	5	27

表 32・打ち上げ×参加率

打ち上げの頻度があがるほど、定例会の参加率はむしろ低いクラブが多いという結果が出てきました。頻度が高いと、ジュニアリーダーは学生が多く、金銭面に余裕が少ないので、参加できない人が多くなり、参加できた人たちの団結や親交は深まっても、参加できなかった人は疎外感を感じてしまい、足が遠のいてしまう、といったことが考えられます。

もっと仲間と親交を深めたいという欲求は誰しもあるものですが、打ち上げはほどほどに自制することが必要と言えるのかもしれませんが。

報告(14)

これが最後の設問です。

定例会に関して抱えている問題点を、ざっくばらんにあげてもらいました。

Q. 定例会に関して抱えている問題点はありますか？ (*あれば記入)

見やすくするため、多い順にグルーピングを行いました。

分類 (内は回答数)	回答
参加者が少ない(9)	幽霊部員がいる
	公民館からのはがきを使って毎回の案内をするので、通信費がかさむ。それなのに、あまり集まらない
	現在会員数が少ない上に、定例会参加人数が5~6名なため、クラブ全体に関わることなどが決定できない
	出席率！！
	参加率が悪い(今年は特に高校3年生が多いため、仕方ないですが…)
	人が行事前にしか集まらない
	毎回集まるメンバーが一緒。
	毎回決まって来ない人がいる。 参加人数が少なめ。
私語が多い(6)	自分に関係のない話だと私語をする
	堅い話を聞くことができない(討論会ができない)
	会員が話を聞かない…
	いらんおしゃべりが多いかなあ、…
	前で人が進めていても話を聞かない。 雑談になってしまう。話し合いの最中に脱線してしまう。
集中力がない(5)	ブリクラ交換や携帯でメールを打っている。
	なかなか話し合いが進まない
	集中していない
	集中力 おやつ持参

後輩が育たない(4)	高校生(会長)が定例会に参加できないときに、頼る人がいない。
無断欠席(3)	欠席の場合会長に連絡するはずが、無断欠席が多い
	遅刻、欠席の連絡が出来ていない。
	欠席の連絡がなかなか来ない。
意見を出さない(3)	意見発表をしてくれる人が限られている
	毎回意見を言う人が決まっており、ただ参加しているだけという人が多い。
	意見を出さない人が多い
	13:00～は始めるのに、13:00 前後ギリギリの集合であること
	遅刻かな? 「来ます！」って言ったやつが来ない!
	社会人が多いので、夜間にしか定例会が開催できないこと(日曜は活動も多いので難しい)
	計画をするのはとても楽しいのですが、スタッフにも学校があるので、目標は月1回の定例会がなかなかできません
	連絡網が機能を果たしていない…
	お知らせのはがきがあるにもかかわらず、日時の問い合わせがある
合計	36

こうして見てみると、定例会を行っていく中で、問題だと意識している問題が、かなりの数あるということがわかります。しかし、それらは、決して多岐にわたるものではなく、むしろ各クラブで共通している事柄が多いようです。

- ・定例会の「入り口」の問題…参加者が少ない、無断欠席が多い、連絡が回らない。
- ・会がはじまってからの問題…集中力がない、私語が多い、意見を出さない。後輩へのいらだち。

どれも、簡単には解決しそうにない問題です。

しかし、こうしたたくさんの問題点が挙げられたのとは対照的に、「最近の問題点はない!!」といった回答があったところも、少なくありませんでした。

報告(12)で取り上げたように、ジュニアリーダーの定例会は、ジュニアリーダーの手によって行われているところがほとんどです。

だからこそ、交流会や大会、研修会、ホームページなどを通して、それぞれが抱えている問題点を、語り合い、良い方策を見つけだし、実行していくことが大事だと、言えるのではないのでしょうか。

報告のまとめ

今までの報告を、ここにまとめていきます。

【報告(1)】

- ・ジュニアリーダークラブは、50人以下で構成されている場合が多い。
- ・平均して、ジュニアリーダーの定例会の参加率は50%くらいであり、中学生や高校生の取り巻く環境が厳しい中、健闘している。
- ・会員数が少ないほど参加率がよい。

【報告(2)】

- ・ジュニアリーダーは、中学生や高校生を中心に構成されている。
- ・約7割のクラブに高校を卒業したメンバーが所属しており、そのまま引退してしまうところは減少している。
- ・小学生が構成員になっているところは少ない。
- ・中学生だけ、高校生だけのクラブは少数で、幅広い年齢層が所属し、子ども会と同様、異年齢集団を形成している。
- ・どんなに年齢層が幅広くても、そのことが会員の参加意欲に直接関係することはない。
- ・年齢層が幅広いほど、会員数が多い傾向がある。

【報告(3)】

- ・全体の3分の2のクラブでは何らかの形で育成者が定例会に参加しており、特に25%のクラブでは、毎回育成者が定例会に参加し、積極的に発言を行っている一方、育成者が全く参加していないクラブも約3割ある。
- ・育成者の定例会への関わりの度合いが大きいほど、会員の参加率が高い。
- ・育成者の関わり方によって会員数が変動するわけではない。

【報告(4)】

- ・高校を卒業したメンバーは、関わり方は多種多様だが、何らかの形でジュニアリーダーに関わりつつづけている。
- ・高卒メンバーの関わり方は参加率にそれほど影響を与えていない。
- ・高卒メンバーの関わりが深いほど会員数が少なく、関わりが少なくなるにつれて会員数が増える。

【報告(5)】

- ・定例会の頻度は、「月1回」が圧倒的に多く、それを頂点に、山型の分布が見られる。
- ・頻度が低い場合、定例会がどのような位置付けなのか、明確化し、会員に明示しないと、参加率の低下に結びついてしまう。
- ・頻度が高くても参加率は低くならない。
- ・頻度が高くなるにつれて、育成者の参加は少なくなる。

【報告(6)】

- ・定例会の日時を固定しているクラブが3分の2ある一方、少ない割合で、臨機応変に定例会を行っているクラブがある。
- ・固定も臨機応変も、参加率は変わらない。むしろ、臨機応変のほうが、低い参加率のクラブの割合が多くなっている。
- ・臨機応変に定例会を行う場合には、しっかりと連絡体制を作ることが大切である。
- ・日時を固定しているクラブは、休日、特に土曜日に行っているところが圧倒的に多い。

【報告(7)】

- ・定例会を午前中に行うクラブは少なく、午後と夜間が多い。その数はほぼ同数である。
- ・どの時間帯に開催しても、参加率の傾向は変わらない。
- ・「午前午後」に開催しているクラブの参加率は、ことごとく低い。
- ・定例会を「会議を行う場」として捉えている場合、長い時間を費やして行くと、参加率の伸び悩みにつながりやすい。
- ・中学生や高校生が主体のジュニアリーダーでも、塾などと同様に、夜間に定例会を行うところがかなりある。

【報告(8)】

- ・定例会の会場は「公共施設の会議室」が圧倒的に多い。

【報告(9)】

- ・ジュニアリーダーが毎日集まれるような場所があるところが過半数を占めている。
- ・毎日集まれる場所の存在が、定例会の参加には必ずしも結びつかない。

【報告(10)】

- ・「ジュニアリーダーの定例会」とは言いながら、その中身はクラブによって千差万別で、全く異なると言ってもいいほどの違いがある。
- ・大きく分けると、「会議を行うことを中心とする定例会」「会議と研修の2本立ての定例会」「行事を行う定例会」の3パターンがある。

【報告(11)】

- ・定例会までの準備は、行うところと、行わないところが、ほぼ同数あり、それは定例会に対する捉え方によるところが大きい。

- ・準備するところとしないところで、参加率に違いは見られない。
- ・定例会を行う頻度と、定例会までに準備をするクラブの割合も相関しない。

【報告(12)】

- ・ほとんどのクラブで、会長が、中心となって進行を行っている。
- ・単位子ども会において、「お客様子ども会」や「大人会」がかなりの割合を占めている中、ジュニアリーダーの定例会は、ジュニアリーダー自身の手で進行・運営が行われている。

【報告(13)】

- ・約半数のところ、何らかの「打ち上げ」を行っている。
- ・打ち上げの頻度があがるほど、定例会の参加率はむしろ低いクラブが多い。

【報告(14)】

- ・定例会を行っていく中で、問題だと意識している問題が、かなりの数あるが、それらは、決して多岐にわたるものではなく、むしろ各クラブで共通している事柄が多い。

おわりに

本アンケートを通じて見えてきたのは、ジュニアリーダーが自身の手で運営し、多くの仲間の参加を得ているけれども、それ故に悩みや課題を抱え、活動しているという現状です。

前者は、昨今の中高校生を取り巻く状況、子ども会の「大人会」になってしまっている現状がある中、全体によく健闘しているとの評価を与えても、差し支えないでしょう。しかも、その活動は中高校生自身の手で運営されているのです。

つまり、「ジュニアリーダーの手によるジュニアリーダークラブ」が実践され、しかも、会員は、その活動にちゃんと足を向けています。これは、「子どもの手による子ども会」が実現可能であり、ジュニアリーダーはそのモデルになりうるということを示していると言えるでしょう。

そんな彼らは、後者の通り、多くの悩みを抱えているところが多いことも、この調査から見えてきました。

それは、「参加者が少ない」「私語が多い」など、自分達の力で運営しているからこそ、出てくるものばかりです。しかも、多岐にわたるものではなく、ある程度共通した問題意識を持っていることがわかります。

ですから、ジュニアリーダーには、情報交換を行う機会を保障する必要があると言えます。

しかし、それは、ただ機会を設ければ良いというものではなさそうです。

というのは、いざ大会や交流会で、他ジュニアリーダーと交流する機会があっても、友達作りや、「情報交換」と称したレクネタ交換に終始しがちで、本アンケートで出てきたような、数々の悩みについて、ともに考えることは少なく、結局、抱えていることを吐き出さずじまいになってしまうことが、少なくないからです。

ジュニアリーダーには、こうしたことを意識し、積極的に情報交換する機会を作るとともに、そこから得たことを、自分達の力に変えていく力が求められていると言えます。

「地域」の役割が見直される昨今、地域の中で活躍する若い彼らは、子ども会、ひいては地域全体の活性化の、重要な鍵(ヒント)です。本調査が、その実態を明らかにし、子ども会・ジュニアリーダー活動の発展に寄与できることを、心から願っています。

未筆ながら、本アンケートに協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

原田 幸哉

同様の調査報告は、ジュニアリーダーコミュニティセンター (<http://jleader.s12.xrea.com/>)でもご覧いただけます。